

コミュニケーション能力について

「みんな仲良く」は無理です

一般的に、みんなと仲良くすることは素晴らしいこと、友達がたくさんいる人は、コミュニケーション能力が高いとされていきます。実際、それで充実した学生生活を送った方も多いでしょう。しかし、ここは会社であるということを忘れてはいけません。会社は学校とは違って、いろいろな立場の人間が所属しています。経営者、管理職、営業社員、現場社員…、職種や役職が違えば、当然、仕事に対する視点や考えも違います。また、同じ職種であっても、それぞれが自分の生活を抱えているため、仕事に対するとらえ方も違ってきます。みんなと仲良くなるうと思っただけで、積極的に行動した結果、実際は、他人に振り回されているだけだった…というのはよくある話です。これでは、何のためのコミュニケーションなのか分かりません。

そもそも、コミュニケーションとは「意思疎通」のことです。大事なのは、自分の考えや価値観を、きちんと相手に伝えることではないでしょうか？

私は、職場のみんなと仲良くできている」と思う方は、果たして、自分はみんなと「本音」で会話ができているのか、考えてみて下さい。

人間関係は作るものなのか

職場の人間関係は大事です。せっかく、一緒に仕事をしているのですから、みんな仲良くしましょう。仕事の時以外でも交流を深めることによって、何か困ったときにはすぐに相談しやすくなります。みんなで職場を盛り上げましょう。

一般論としては申し分ありません。問題は、学校のクラス運営のための理屈が、会社という複雑な社会集団にそのまま用いられていることです。その一つの結果として、自分の悩みを「仲の良い友だち」に相談したけれど、みんな会社と同じことばかり言っていて相手にしてくれない…といったことになっていませんか？

この他にも、陰口や告げ口、蹴落とし合い、また、昨日までは仲の良かった同僚が急に冷たくなった等、これらの矛盾はどこからくると思えますか？何のための人間関係なのでしょう？

職場での人間関係に気を取られるあまり、現在の労働条件に対する意識が希薄になっていませんか？



私たち労働者にとって健全な人間関係って何だろう？



若い力

第 85 号

2017年 12月 15日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT092-483-1515